

緑化だより

No.204 令和6年5月号



タニウツギ

- 季節の花(クハ(ヤマグワ))
- 水生昆虫の話
(カワヨシノボリ)
- 小さな世界こけ(ヒジキゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

5月 休園日はありません

ryokka 緑化の未来

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

クハ(ヤマグワ)

「筑波嶺(つくはね)の 新桑(にひぐは)繭(まよ)の 衣(きぬ)はあれど
君が御衣(みけし)し あやに着欲(よ)しも」

東歌 卷 14-3350

これを訳しますと

筑波山のふもとで採れた桑の新芽を蚕が食べて作った絹の衣は、それはそれで、とても素敵ですが、それよりも、好きな男の方から贈られた絹の衣を、わが身に着けてみたいものですね。とってもいいでしょうね。

筑波嶺(つくばね)は筑波山のことです。新桑(にひぐは)は桑の新芽のことで、今年の新桑で蚕を育てて作られた絹の織物は高級品です。繭(まよ)は蚕かいこのまゆのことです。万葉の時代から、蚕のえさとして桑は植えられました。女性は絹織物を作るのが重要な仕事で、桑の新芽を摘みながら娘さんが詠った恋の歌です。

クワはクワ科クワ属の落葉高木で、日本に広く分布しているのはヤマグワです。南の方にはシマグワ、石灰岩地にはケグワなどがあります。養蚕用に栽培される櫓ろ桑そうはマグワの変種で、マグワより葉は大きく厚く光沢があり中国原産です。



ヤマグワ

養蚕ようさんの歴史は古く、中国では紀元前 3000 年頃、日本では弥生時代中期から始められたと考えられ、昭和の最盛期には全国に桑畑の風景が見られ、地図にも桑畑の記号が記載されていました。

明治時代から、皇室では 5 月の豊作伝統行事の『御養蚕始ごようさんはじめの儀』を歴代の皇后さまが受け継ぎ、ふ化したばかりの蚕の幼虫に桑の葉を与えられます。

現在では海外の安い生糸が輸入されたり、担い手の高齢化のため養蚕農家が減少していますが、たまに農山地に行くと、桑の木が果実を付けて残っているのを見ることがあります。

現在日本では桑の実を食べる習慣はあまりありませんが、果実はジャム、ジュース、若葉は天ぷら、和え物に利用されます。(上村)

水生生物の話

カワヨシノボリ

これまで、水生昆虫をご紹介してきましたが、少し視野を広げて川の中にいるいろんな生き物たち「水生生物」をご紹介していきたいと思ひます。

その中でも特に人気のある魚類の中から、緑化センターの小川でも石を探ると見つけることができるハゼの仲間「カワヨシノボリ」をご紹介します。

広島では、ヨシノボリ類のことを「はぜ」とか「ごり」とか「ごりんちよ」と呼ばれているので、この名前を聞くとピンとくる方も多いのではないのでしょうか。

ヨシノボリ類は、日本全国各地の河川や湖沼に広く分布しているハゼの仲間で、アユと同じように孵化すると海に下って、また川へ戻ってくる両側回遊魚が多いのですが、主に西日本に広く分布しているカワヨシノボリは陸封型で、海に下ることなく一生を川で過ごします。斑紋型や無紋型など5型が確認されており、さらに不明型もいるなど、細かい分類がややこしい種類でもあります。



カワヨシノボリ

生息域は上流から中流にかけて比較的広い範囲で、全長は4~6cm程度。オスは背びれが長く伸び、婚姻色が出るととても美しい色になります。模様には個体差があるため、見分けるのに一番確かな方法は胸鰭分枝軟条の数(18本以下)となりますが、個人的にはパッと見て胸鰭に朱色のライン、頬に朱色の斑点があるのも見分けるポイントにしています。食性は雑食性。やや肉食傾向のようで、水生昆虫を針につけて目の前に落として狙うと比較的簡単に釣れます。ちなみに、水槽で飼育すると金魚のえさなどにもよく餌付きます。また、砂砂利とこぶし大の石を水槽に入れてやると、砂砂利を掘って住処を作り始めるので、その様子はなかなか可愛らしいです。(西村)

小さな世界こけ

ヒジキゴケ

日当りのよい石垣に生育するコケの一つにヒジキゴケがあります。緑化センターでは学習展示館周辺や管理事務所周辺の石積など各所で群落を見ることができます。

ヒジキゴケはヒジキゴケ科で雌雄同株。一次茎は岩を這い、そこから3.0~5.0 cmの長さの二次茎が不規則に立ち上がって伸びます。葉は1.5 mm前後の卵形で葉身は凹み、葉の先は短い透明な尖があります。

このコケは乾燥した時と湿り気のある時とでは全く姿が異なり、乾燥している時、葉は茎に密着し白っぽい緑色ですが、雨の後など湿潤になると、黄緑色の葉が開きスナゴケと勘違いしそうです。



ヒジキゴケ(乾燥したとき)



ヒジキゴケ(湿潤なとき)

乾燥している時の状態をヒジキに見立てたのが名前の由来です。

胞子のう(蒴)は3月頃から茎の先につくられますが、蒴柄が短いため雌苞葉に包まれています。4月になると赤くなった倒卵形~球形の胞子のう(蒴)がみられます。(山根)



ヒジキゴケの胞子体

研修会のご案内

- | | |
|---|---|
| ○5月11日(土) 『春のバードウォッチング』
散策路を歩きながら野鳥を観察します
※自由参加、無料、双眼鏡持参 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師:日本鳥類保護連盟
三次地方分会事務局長
衛藤 慎也 |
| ○5月12日(日) 『第15回ひろしま遊学の森こども写生大会』
～春の緑化センターを描こう～
※小学生以下対象,自由参加、無料、画材(画用紙以外)持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師:元中国新聞社図画教室
指導審査員 横山 直江 |
| ○5月15日(水) 『コケの観察会』
室内で基本を学び、屋外で観察します
※自由参加、無料、ルーペ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師:日本蘚苔類学会会員
林 正典 |
| ○5月16日(木) 『春の写真教室』～春を写そう～
散策路を歩きながら、植物の撮影について学びます
※要予約(先着15名)、無料、カメラ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師:二科会会員
宗岡 泰昭 |
| ○5月24日(金) 『5月の自然探勝』
散策路を歩きながら植物を観察します
※自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師:森林植物研究家
埴田 宏 |
| ○5月25日(土) 『庭木の病虫害教室』
防除と土づくりについて学ぼう
※自由参加、無料 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師:樹木医
菅 信貴 |
| ○6月1日(水) 『松の手入れ(春)』
基本を学び、屋外で実技指導を行います
※要予約(先着15名)、無料、剪定鋏・手ノコ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師:NPO法人樹木医ひろしま
工藤 徹 |
| ○6月2日(日) 『自由工作塾』
自然の素材で自由に工作
※自由参加(随時受付)、材料費1作品100円 | 10:00～15:00 レストハウス前
講師:緑化センターボランティア
ふれあい湧 |
| ○6月2日(日) 『森のネイチャーゲーム』
自然の中で遊びを体験します
※自由参加(随時受付)、無料 | 10:00～15:00 レストハウス前
講師:広島市
シェアリングネイチャーの会 |

☆お知らせ・ご案内 ☆♪

- ・ひろしま遊学の森 スタンプラリー 2024 春 ～5月19日(日)
緑化センターと森林公園の両園でスタンプを集めて景品ゲット!
- ・ひろしま「山の日」県民の集い 6月2日(日) 10:00～15:00
場所:レストハウス前広場
山の手入れ,自由工作塾,森のネイチャーゲーム

◎展示会

場所:レストハウス
(ボード展示)

- ・季節の花 写真展 ～5月31日(金)